

重点課題	重点目標	自己評価		学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度への課題と 今後の改善方針	
		評価指標と活動計画	評価 * ()は昨年度との比較で、増減ポイントを表す			
リーディング ハイスク ル事業の推 進① 中高一貫教 育の推進	(全校レベル) 中高一貫教育校 のメリットを最大限 に活かし、本校の 活性化に役立て る。	評価指標 ○「学校生活や学校の教育活動全般に満 足している」と答えた生徒・保護者が80%以 上。 ○「前期生と後期・高校生の関係は良好で ある」と答えた生徒が70%以上。 ○「前期、後期・高校が連携したPTA活動 は活発である」と答えた保護者が80%以上。	評価指標による達成度 ○「学校生活や学校の教育活動全般に満足している」と 答えた生徒91%(+2p)・保護者92%(±0p)。 ○「前期生と後期・高校生の関係は良好である」と答え た生徒69%(-1p)。 ○「前期、後期・高校合同のPTA活動は活発である」と 答えた保護者が65%(-10p)。	総合評価 (評定) B (所見) 今年度もコロナ禍の影響を受け、教育活動全 般に大きく制約があったものの、昨年度以上に 開催方法等を工夫するなどして、可能な限り実 施した。そのため、学校生活や教育活動全般 に対する満足度については、生徒・保護者とも に評価指標を上回り、生徒に関しては昨年度 より2ポイント向上した。 ただ、PTA関係の行事に関しては、感染防止 対策により、文化祭の公開中止を始め、制限を お願いせざるを得なかった。 前期生と後期・高校生の良好な関係の構築 に関しては、概ね評価指標の数値となった。中 等教育学校後期課程もスタートし、自然に一体 感が醸成されている。 いよいよ次年度は、中等教育学校への完全 移行に向け、最終準備の年度となる。学校全 体の活性化に繋がられるよう、協働体制の確 立を図っていく。	教育活動全般に満足 しているという項目の数 値が9割以上というの は、城ノ内に対する満 足度が高いというこ とで、すばらしい結果だ。 コロナでさまざまな活 動が制約され、大変で あったと思う。一方、オ ンラインでの取組など、 コロナだからこそ進んだ ものもある。コロナ下の 2年でできなかったもの も、本校の6年という学 校生活のスパンでみれば、別の時期に別の方 法で実施することも可 能。6年というメリットを フレキシブルに活用す れば、コロナ下ならではの 教育体系ができるの ではないか。	①前期課程、後期課程・高校合 同の行事・作業・部活動・その他 交流を行う機会を、感染対策の状 況に応じて、できる限り工夫して 実施する。 ②全ての教職員が、同じ中等教 育学校の同僚であるという意識を しっかりと抱き、スクールポリ シー、育成すべき生徒像の実現 に向けて、緊密に連携を図るため の組織づくりを行う。
	(下位組織レベル) 前期生と高校生 の良好な関係構築。 前期、後期・高校 教職員の緊密な 連携による組織の 活性化。 前期、後期・高校 が連携したPTA活 動の充実。	活動計画 ①前期、後期・高校職員合同の会議を年24 回以上、PTA役員会を年4回以上開催す る。 ②前期、後期・高校合同の行事・作業・部活 動・交流を行う機会を積極的に設定する。 ③中等教育学校への完全移行に向けた準 備を進め、体制を整える。	活動計画の実施状況 ①前期、後期・高校職員合同の会議を30回(運営委員 会12回、中等教育学校移行全体会2回、人権教育研修 会・コンプライアンス研修会など職員会議16回)、合同のPT A役員会を3回(1回は文書での報告)開催し、共通理 解を図った。 ②コロナ禍ではあったが、開催方法を工夫して、学校 祭、予餞会、防災訓練、人権映画会、総合学習発表会 などを前期、後期・高校合同で実施するとともに、音楽 部やフェンシング部など多くの部で合同練習を行った。 ③教科会と分掌の課会を各2回、全体会を2回開催し、 「中等教育学校推進に向けた準備計画」の本年度まと めを完成させた。			
リーディング ハイスク ル事業の推 進② 確かな学力 と進路観の 育成	(全校レベル) 授業の充実改善 に積極的に取り組 み、全生徒の進路 希望実現を目指 す。	評価指標 ○「教員は学力を伸ばす教育を行っている」 と答えた生徒・保護者・教職員が85%以上。 ○「教員はわかる授業を目指して授業を工 夫している」と答えた教職員が90%以上。 ○「生徒の希望を尊重したきめ細かな進路 指導ができている」答えた生徒・保護者が 85%以上。 ○「教員は生徒の進路相談や悩みについて よく相談にのってくれる」と答えた生徒・保護 者が85%以上。	評価指標による達成度 ○「教員は学力を伸ばす教育を行っている」と答えた生 徒92%(±0p)・保護者87%(-2p)・教職員94%(±0p)。 ○「教員はわかる授業を目指して授業を工夫している」 と答えた教職員が98%(+2p)。 ○「生徒の希望を尊重したきめ細かな進路指導ができ ている」答えた生徒91%(+4p)・保護者83%(-1p)。 ○「教員は生徒の進路相談や悩みについてよく相談に のってくれる」と答えた生徒93%(+5p)・保護者85%(-1p)。	総合評価 (評定) A (所見) すべての教職員の熱心な取り組みにより、保 護者の1指標以外は目標を達成することができ た。保護者の評価は、どの項目も1~2ポイン ト減少している。1つの要因として、コロナ禍に よる保護者への発信が少なかったことが考え られる。客観的に授業を振り返り、新しい学 力観を意識した授業となるように、さらなる授業 改善に取り組むとともに、生徒・保護者との意 思疎通を深めることが求められる。 学年集会、進路講演会などは、概ね計画通り 実施することができた。また、生徒の反応も概 ね良好であった。講演会の満足度は、講師の 選定が最も大きな要素であると思われる。今後 も情報収集に努め、各学年の要望に合致した 講師を探すことが求められる。 学習実態調査と進路希望調査は、予定通り 実施することができた。今年度はClassiが導入 され、その扱いに苦慮した。また、誰もが手探り 状態で、まだまだ十分に利用できたとはいえない。 来年度も継続されるのであれば、より多く の場面で利用できるように研修を進める必要 がある。	高評価であり、前期、 後期・高校合同の教科 会、授業研究会をもっ ていることは、6年間を 通した各教科の指導の 流れや重点などを共有 されるので、いい取組 だと思ふ。 保護者対象の進路説 明等に関して、コロナ下 における有効なあり方 を検討いただければあ りがたい。	①新しい学習指導要領への移行 が始まり、主体的対話的で深い学 びやICTの活用等、新たに求めら れている指導法を用いての授業 改善について、今後も調査・研究 を続ける。また、新入試について も調査・研究を継続する。 ②6学年を中心に大学入学共通 テスト対策を行う。進路指導課だ けでなく、各教科・各学年と協力し て対応する。また、より良い進路 指導体制を構築するために、職 員会や資料交換など情報交換会 の機会を提供する。 ③小論文、面接等で個別指導を 希望する生徒へどのように対応 するか、探究活動の充実をどのよ うに図るのか、課題を検証しつ つ、限られた人員で持続可能な指 導体制の構築を検討する。 ④6学年以外は中等教育学校生 となる。これまでの計画を尊重し つつも、本校が目指す中等教育 学校像の確立に向け、課題や改 善点を検討する。
	(下位組織レベル) よりよい指導計画 や指導方法の工 夫・改善。 全ての教師集団 の協力による組織 的な進路指導体 制の構築。 確かな進路観や 職業観の育成。	活動計画 ①研究授業・授業研究会を前期、後期・高 校合同で実施する。 ②授業評価を年2回実施する。 ③キャリア形成と進路に関する学年集会や 講演会及び大学講師等による出張講義を 実施する。 ④学習実態調査と進路希望調査を実施す る。	活動計画の実施状況 ①中高合同での研究授業・授業研究会を年11回実施し た。 ②授業評価を年2回実施した。 ③計画的に学年集会や講演会等を実施した。 ・学年集会(4年5回、5年6回、6年6回) ・進路講演会(4年1回、5年1回、6年1回) ・未来を拓く講演会(2回)、総合的な探究の時間での外 部講師による講演会等(オンラインを含む)、体験学習 等 ④学習実態調査(4年5回、5年5回、6年4回)及び各 学年とも、年2回の進路希望調査を実施した。			

重点課題		重点目標	評価指標と活動計画	自己評価 評価 * ()は昨年度との比較で、増減ポイントを表す	学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度への課題と 今後の改善方針	
人権教育の 推進	(全校レベル)	すべての教育活動で人権教育の推進を図る。	評価指標 ○「すべての教育活動の中で人権に配慮した指導が行われている」と答えた生徒・保護者・教職員が80%以上。 ○「自分を大切に思う心が育っている」と答えた生徒が80%以上。 ○「生徒は他者を大切に思う心や態度が育っている」と答えた生徒・保護者・教職員が80%以上。	評価指標による達成度 ○「すべての教育活動の中で人権に配慮した指導が行われている」と答えた生徒90%(+5p)・保護者86%(-2p)・教職員88%(-8p)。 ○「生徒は自分を大切に思う心が育っている」と答えた生徒87%(+1p)。 ○「生徒は他者を大切に思う心や態度が育っている」と答えた生徒83%(+3p)・保護者86%(-1p)・教職員79%(-13p)。	総合評価 (評定) B (所見) すべての評価指標において、生徒は対前年度以上を達成することができたが、保護者・教職員は前年度を下回った。 コロナ禍において、生徒に対しては感染対策を講じて十分な教育活動を展開できたが、保護者向けの啓発や教職員向けの研修については十分な機会が確保できなかった。 今後も、生徒の自己肯定感を育むことを土台に、他者を大切に思う心や態度の育成をはじめ、人権感覚の醸成について継続して取り組むとともに、オンライン等を活用し、保護者啓発や教職員研修の充実に努める必要がある。	大事にすべき課題であり、肯定的ではない回答をした生徒のために、きちんと手立てをしていくことが必要である。 6年間あるので、人間関係がうまくいかないと難しいところもある。学校の中で、複数のコミュニケーションをもつことにより、居場所も増える。城ノ内はいろいろな教育活動に取り組んでいるので、居場所を複数もつことも可能ではないか。	①人権資料『じんけん』をさらに活用して、より生徒の実態に対応した人権ホームルーム活動ができるよう、研究協議や事前研修会を充実させる。 ②定期的を実施している学校生活に関するアンケート調査等の結果を活用して生徒の悩みなどを把握し、迅速に対応できる体制を整え、いじめをはじめ人権問題の未然防止と早期発見・対応を実行する。 ③教科、特別活動等すべての教育活動の中で、生徒の課題や配慮すべき事柄への気付きと情報を共有し、生徒の自己肯定感を育むことができるよう留意し、学年会、職員会を定期的に設定する。
	(下位組織レベル)	ホームルーム活動や学校行事の充実。	活動計画 ①人権学習ホームルーム活動の研究授業・研究協議、事前研修会を実施する。 ②人権問題意見発表会を実施する。 ③人権問題講演会を実施する。 ④職員研修を校内で年2回、校外で年1回実施する。	活動計画の実施状況 ①各学年で研究授業・研究協議を実施するとともに、毎回、事前研修会を学年別に実施した。 ②全校生徒を対象に人権教育意見発表会を実施した。 ③5年生対象に人権問題講演会を、また4年生対象に「WAKU WAKU 新生活セミナー」を実施した。 ④中高合同の教職員研修会を校内で年2回実施した。昨年実施できなかった校外での地域研修会は、感染症対策を十分に講じて実施した。			
基本的な生活習慣の確立と道徳性の涵養	(全校レベル)	学校は家庭と連携し、生徒の基本的な生活習慣の確立を図る。また、いじめを絶対許さない姿勢を示し、いじめの未然防止に努める。	評価指標 ○生徒一人あたりの遅刻回数が、昨年度より減少している。 ○「生徒は挨拶をしている」と答えた生徒・教職員が70%以上。 ○「生徒は服装頭髪についての校則を守っている」と答えた生徒・保護者・教職員が70%以上。 ○自転車安全カード(警告書)の交付数が、昨年度より減少している。	評価指標による達成度 ○「学校は家庭と連携し、生徒の基本的な生活習慣の確立に努めている」と答えた保護者82%(+2p)・教職員88%(-6p)。生徒一人あたりの遅刻回数は、昨年度3.5回に対して今年度1.1回であった(ともに2学期末時点)。 ○「生徒は挨拶をしている」と答えた生徒62%(±0p)・教職員52%(+2p)。 ○「生徒は服装頭髪についての校則を守っている」と答えた生徒74%(+2p)・保護者93%(+1p)・教職員85%(-3p)。 ○「生徒は交通ルールや交通マナーを守っている」と答えた生徒58%(-9p)・教職員71%(-10p)。自転車安全カードの交付数は、昨年度14件に対して今年度24件(ともに11月末時点)。	総合評価 (評定) B (所見) 「基本的な生活習慣の確立や家庭との連携」については、保護者・教職員ともにアンケート結果も良好で、まずは落ち着いた学校生活を送ることができている。生徒一人あたりの遅刻回数も減少がみられた。 「挨拶」については昨年度と大差なかったが評価自体は低かった。「服装頭髪」についての校則が守られているかについては、生徒と保護者・教職員の間には若干差があったが、いずれも評価指標を達成した。 「いじめ防止」については、アンケートを定期的実施し、早期発見・対応に努めた。しかし、アンケート結果に表れない場合もある。授業中や休み時間等の観察や教職員間での情報の共有など徹底し、継続的な取組が必要である。 「登下校時の安全、特に自転車通学」については、無灯火の事例を主に警告書の交付数が増加した。事故の被害者・加害者にならないようにルールの厳守を指導していく。また、事故に遭遇した時に適切な対応がとれるよう、さらに指導を徹底する必要がある。	学力の基本は、基本的な生活習慣の確立である。教育現場だけでなく、学校と家庭の連携が大事である。 自律した子どもの育成において、子どもに考えさせることは大事である。ルールについて理解し、納得して守らせることが必要ではないか。 ②挨拶は生活の基本的なコミュニケーションツールである。生活委員による「5のつく日の運動」などを通じて挨拶が交わる環境づくりを継続する。 ③服装頭髪指導については、集会での検査だけでなく、清潔感のある着こなしを心がけさせ、常に指導する。保護者と共通理解をはかり、家庭への連絡など連携を密にした指導を続ける。 ④いじめに関するアンケートの実施等を通して、積極的認知、早期発見、適切な対応に努める。 ⑤夜間無灯火での運転の厳禁など、ルール厳守・マナー向上の徹底に努める。	
	(下位組織レベル)	挨拶が交わる環境づくり。服装頭髪指導の徹底。交通ルール・マナーの遵守・向上に向けての取組推進。いじめの積極的な認知と対応。	活動計画 ①遅刻者には「遅刻指導票」を提出させ、その都度指導する。 ②5のつく日には、朝のあいさつ運動を実施する。 ③服装頭髪検査を定期的実施する。 ④毎月交通マナーアップ運動を実施する。 ⑤いじめ問題に関するアンケートを年3回実施する。	活動計画の実施状況 ①遅刻者は「遅刻指導票」を提出。提出先である教頭による指導のち入室させた。 ②新型コロナウイルス感染症の感染予防対策をとり、あいさつ運動と自転車置き場での駐輪指導を行った。 ③学年集会時やHR活動において実施した。 ④毎月の学校安全の日(20日)には、登校時に教職員による立ち番指導を実施した。 ⑤いじめ問題に関するアンケートを年3回実施。内容について面談での聞き取り、事象に応じて対応した。			

重点課題		重点目標	評価指標と活動計画	自己評価 評価 * ()は昨年度との比較で、増減ポイントを表す	学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度への課題と 今後の改善方針	
本県の重要課題を見据えた教育の推進	(全校レベル)	防災教育を徹底するとともに、主権者教育と消費者教育の推進に努める。	評価指標 ○「学校は防災意識の高揚に努めるとともに、防災への取組を推進している」と答えた生徒・保護者・教職員が85%以上。 ○防災クラブを組織し、積極的に防災活動に取り組む。(有志での参加者数が15人以上)	評価指標による達成度 ○「学校は防災意識の高揚に努めるとともに、防災への取組を推進している」と答えた生徒85%(+7p)・保護者86%(+4p)・教職員98%(+4p)。 ○防災クラブとして、36名のクラブ員が積極的に防災活動に取り組んだ。 ○「生徒は授業やホームルーム活動等を通して、政治や選挙への関心や政治的教養が高まっている」と答えた生徒68%(+7p)・教職員68%(-5p)。 ○「生徒は『エシカル消費』を意識し、マイボトル・バッグの使用や地産地消などの具体的な行動を心がけている」と答えた生徒65%。 ○「教職員は時間外勤務の縮減を目指し、担当業務の精選など業務改善に取り組んでいる」と答えた教職員43%(+2p)。	総合評価 (評定) B	選挙や政治参加の意識を高めるためには、前期から後期・高校にかけてどういうふうに伸ばしていくかというグラウンドデザインや6年生までのロードマップが必要。普段のHRで、身近な考える材料を投げかけるなど、継続的な取組が大事である。教職員の業務改善に関して、生徒のために必要なものは当然やるべきだが、その反面、必要でなくなったものをやめる勇気も重要である。客観的なエビデンスに基づいてやめることも必要である。	①防災教育の課題としては、防災計画や訓練の実施計画をより現実に合わせてものに修正を加えていく必要がある。また、防災クラブの活動を今年度以上に活性化できるように、校外の研修会などにより積極的に参加したり、校内活動についても自主的積極的に参加できるように体制を構築していく。 ②主権者教育については、公民科の授業やHR活動、学校行事を中心に、より視点を明確化するとともに、指導内容や方法を改善し、より実効ある取組を推進する。 ③消費者教育については、エシカル消費推進の意識を高める取組を継続し、実践力の向上を図る。 ④教職員の業務改善のため、業務内容の見直し・縮減を図るとともに、ICTを活用した業務の効率化を図る。
	(下位組織レベル)	防災意識の高揚と防災への取組の推進。関連授業や特別活動を通して、主権者意識と消費者意識を高める教育の充実。勤務の効率化の推進。	活動計画 ○「生徒は授業やホームルーム活動等を通して、政治や選挙への関心や政治的教養が高まった」と答えた生徒・教職員が60%以上。 ○「生徒は『エシカル消費』を意識し、マイボトル・バッグの使用や地産地消などの具体的な行動を心がけている」と答えた生徒が80%以上。 ○「教職員は時間外勤務の縮減を目指し、担当業務の精選など業務改善に取り組んでいる」と答えた教職員が60%以上。	活動計画の実施状況 ①防災避難訓練(地震・津波)を7月と11月に実施した。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、青嵐認定こども園や地域の自主防災会の方々との連携については実施できなかった。 ②各学年において、主権者教育についての講話を行った。また、5年生対象に徳島市選挙管理委員会職員を講師に迎え出前授業と模擬投票を行った。 ③城ノ内高校版エシカル消費指標を発展させエシカルマーカーを考案した。「エシカル甲子園」では開催県代表に選ばれ、「葉っぱのエシカルマーカーEthicaleafとアプリ開発」というテーマで、研究発表を実施した。	(所見) 7月の防災訓練は、教職員の役割の明確化と地震・火災時の基本避難ルートの確認に重点をおいた。11月は応用編という設定で、開始時間を予告せず実施し、通行止め箇所も設置した。いずれも滞りなく実施できたが、細かな点での課題や改善点も見つかったので、来年度の計画に修正を加えたい。 また、防災士有資格者と有志による防災クラブでは、本年度、想定以上の人が参加してくれ、炊き出し訓練や防災啓発教材の作成などの活動から防災意識の高揚につながることができた。次年度も継続取り組んでいきたい。 主権者教育については、機会を捉えた指導を意識して取り組み、生徒の達成度が前年度を上回った。 エシカル消費については、毎年4年生全員が調査研究に取り組んでいるが、具体的な行動につながっていない生徒もいるので、実践をイメージできる研究を促したい。 教職員の業務改善については、昨年度より2ポイント上回ったが、評価指標には届いていない。コロナ対応に加え、GIGAスクール対応に追われたことによる業務負担の増加が影響していると思われる。負担感を感じている業務として、校務分掌を挙げている教職員が半数近くいる。業務内容の見直しを図るとともに、組織で効率化を図る体制を整える必要がある。		
環境教育の推進	(全校レベル)	環境教育への取組を推進し、学習の場にふさわしい環境を整える。	評価指標 ○「生徒は清掃に積極的に取り組んでいる」と答えた生徒・教職員が85%以上。 ○「生徒はゴミの分別や節電・節水に取り組んでいる」と答えた生徒・教職員が80%以上。	評価指標による達成度 ○「生徒は清掃に積極的に取り組んでいる」と答えた生徒83%(+4p)・教職員81%(+1p)。 ○「生徒はゴミの分別や節電・節水に取り組んでいる」と答えた生徒78%(+7p)・教職員81%(+10p)。	総合評価 (評定) B	良好に推移しており、今後も継続的に取り組んでいただきたい。 ①4月当初に清掃の手順を生徒に丁寧に指示する。また、普段から生徒に清掃の意義を伝えるとともに、主体的に清掃活動に取り組むよう指導する。 ②ゴミの分別や節電・節水については、教職員がこまめにチェックして回り、その都度気付いたことを注意しながら、生徒の意識を改善する働きかけを行う。 ③整美委員や保健委員が発行する「環境・保健新聞」をさらに充実させる。 ④エアコン使用については、必ず窓等を開放し、適切に使用する。	
	(下位組織レベル)	清掃への積極的な取組。ゴミの分別や節電・節水への取組。	活動計画 ①日頃からゴミの分別を推進する。 ②使用水量、使用電力の推移をグラフ化して掲示し、節水・節電への意識を高める。 ③吉野川堤防清掃活動や学校周辺の清掃活動に、年2回以上取り組む。	活動計画の実施状況 ①各クラスの整美委員が中心となってゴミの分別を推進し、教室や職員室、特別教室などすべてのゴミ箱で分別回収の徹底に努めた。 ②電気と水道の使用量をグラフ化してアセンブリホールに掲示し、節電・節水への意識向上に努めた。 ③吉野川堤防清掃及び、学校周辺の掃除を2回実施した。また、除草作業は3密をさけるため実施できなかった。	(所見) 清掃活動については、清掃の時間帯に音楽を流し、「音楽が流れている間は掃除をする」という意識づけが徹底されたこともあり、達成度は昨年度より上昇した。 ゴミの分別については、教室内の分別はほぼ良好であるが、長期休業中や土・日の部活動の後、ペットボトルや昼食の弁当等の処理に問題がみられた。 節水・節電について、特に、エアコンの設定温度(夏は最低25℃以上、冬は最高23℃以下)等に関するルールは、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため窓を開放したこともあり、柔軟に対応した。 吉野川堤防清掃等の様子は、整美委員等が「環境・保健新聞」を発行し、生徒への意識づけに貢献した。		

令和3年度 総括評価表

(評定) A: 十分達成できた, B: 概ね達成できた, C: 達成できなかった

城ノ内中等教育学校(後期課程)・高等学校

重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	自己評価		学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度への課題と 今後の改善方針
			評価 * ()は昨年度との比較で、増減ポイントを表す	総合評価		
特別活動の 活性化	(全校レベル) 学校行事や部活動 を充実させ、学校 全体を活性化する。	評価指標 ○「学校行事は充実しており、生徒が生き 生きと取り組んでいる」と答えた生徒・保護 者・教職員が80%以上。 ○「部活動は活発である」と答えた生徒・保 護者・教職員が70%以上。 ○「委員会活動は活発である」と答えた生 徒・教職員が70%以上。	評価指標による達成度 ○「学校行事は充実しており、生徒が生き生きと取り組 んでいる」と答えた生徒90%(+1p)・保護者83%(-5p)・教 職員83%(-4p)。 ○「部活動は活発である」と答えた生徒84%(-1p)・保護 者80%(-1p)・教職員64%(+3p)。 ○「委員会活動は活発である」と答えた生徒65%(+1p)・ 教職員63%(-9p)。	(評定) A	このコロナ下で最大 限の努力をしながら行 事を断行できたことが すばらしい。 校誌から、特別活動 を通して学ぶというこ はもちろんのこと、学校 生活に楽しく参画する というスタンスが伝わっ てきた。子どもたちが多 面的に学ぶ特別活動が城 ノ内の強みであると感じ た。	①次年度も新型コロナの感染予 防により活動の制限はあると思わ れる。必要以上に活動内容を中 止にしたり制限することなく、適切 な予防策を講じて最大限生徒の 活動を維持できるよう計画してい く。 ②中等教育学校移行のため学校 行事を一部変更した。今後も微調 整しながら改善を実施していく。 特に城ノ内祭については、これま での内容も踏襲しつつ、生徒の安 全に留意しながら、より自主的で エネルギッシュな活動的ができる よう、計画を再確認する。 ③部活動については、各部が効 率のよい練習を工夫し、生徒が部 活動と勉強の両立を図れるよう努 めていく。また、部ごとに年間活動 計画(統一様式)を作成し、ホーム ページに掲載して保護者に周知 する。 ④生徒会活動や委員会活動につ いては、各種の運動・SHRでの呼 びかけ・新聞発行等をさらに充実 させ、生徒が自主的に生き生きと 活動に取り組める場を設ける。
	(下位組織レベル) 学校行事の内容 の充実。 部活動の活性化。 部活動と勉強の両 立。 行事での感染症 対策。	活動計画 ①学校行事は生徒が主体的に運営に携わ れるよう実施する。 ②部活動が活性化するよう広報やPRに努 力する。 ③部活動の効率化や考査前の活動自粛な ど、部活動と勉強の両立体制を確立する。 ④生徒会委員会活動を活発化させる。委員 会活動の計画や反省ができるような時間を 設ける。 ⑤必要な感染症対策を講じて行事の中止を 可能な限り少なくする。	活動計画の実施状況 ①文化祭、体育祭、球技大会などの学校行事は、コ ロナ禍で活動に制限を加えざるを得なかったが、生徒 会を中心に可能な限りの工夫や対策を行い、なんとか 達成感を感じられる程度で運営することができた。 ②部活動(部員数はのべ人数)加入率は4年生93(昨年 87)%, 5年生71(昨年84)%, 6年生84(昨年71)%であ った[4月現在]。 ③考査期間中の活動を届出制とし、試合等が近い部 に限り原則1時間以内という制約を設けて実施した。コ ロナ禍ではあったが今年度はほとんどの大会が予定通り 実施され、練習時間の制約はあったものの概ね満足 のできる活動ができた。 ④各委員は生徒会委員会活動のもと活動し、校内の行 事、環境作り、広報活動などに役割を果たした。昨年度 委員会活動が増え、今年度はそれらを踏襲した。	(所見) 評価指標上の目標は、ほぼ達成できている。 部活動の入部率は、5学年においては低下し たが、4、6学年では上昇した。特に4学年は大 きく増加した。 コロナ禍ではあったが、概ね予定通りに学校 行事は行うことができた。しかし、さまざまな制 限があったので完全燃焼には至らなかったと 思われる。 部活動と学習の両立のために睡眠時間や余 暇時間を削るなど時間の確保に苦心する生徒 が多く、生徒の多忙感は否めない。 生徒会や委員会等の活動については、「生徒 会新聞」「人権通信」「環境・保健新聞」などの 発刊など、昨年度からの活動を継承した。 生徒会は十分な時間をかけて、文化祭、球 技大会、予餞会などの各種行事に積極的に取 り組み、学校の活性化に貢献した。また、密を 避けるため行事をリモートにし、映像機器の企 画から準備、映像作成に至るまで生徒会役員 がその秘めた能力を十分に発揮し学校行事の 運営に貢献した。		
開かれた学 校づくりの推 進と郷土愛 を育む教育 の推進	(全校レベル) ホームページを充 実し、学校を公開 する機会をつくる。 また、地域資源を 生かした多様な体 験・交流活動を行 う。	評価指標 ○「ホームページは本校を理解してもらうの に役立っている」と答えた保護者が80%以 上。 ○「学校公開の日、文化祭の公開は、本校 を理解してもらうのに効果的である」と答 えた保護者・教職員が80%以上。 ○「地域資源などを生かした多様な体験・交 流活動行われている」と答えた生徒・保護 者・教職員が80%以上。	評価指標による達成度 ○「ホームページは本校を理解してもらうのに役立っ ている」と答えた保護者81%(+1p)。 ○「学校公開の日(参観日)は、本校を理解してもらう のに役立っている」と答えた保護者83%・教職員76%。感染 症拡大防止のため、文化祭は公開していない。 ○「地域資源などを生かした多様な体験・交流活動が 行われている」と答えた生徒60%(-6p)・保護者71% (+1p)・教職員67%(-6p)。	(評定) B	広報は戦略であり、仕 掛けが必要である。 どんなに活動してい ても、それがHP上にア ップされていないと、止 まっているように見え てしまう。生き生きと活動 しているところはHPも 生き生きとしており、リ ンクしているように感じ る。 その中で、週2回以上 更新しているのは、す ばらしい。業務の過剰 負担とならないように取 り組んでいただきたい。	①各課及び各部活動に依頼し て、ホームページの記載内容を定 期的に見直してもらうとともに、最 新記事の掲載を促す。また、マス コミなどの取材に積極的に応じ て、学校のPRに努める。 ②学校公開の日、文化祭等、本 校の教育活動を直接理解してもら える行事について、可能な範囲で 公開できるよう、開催方法や内容 を工夫し、充実を図る。 ③ゴルフ研修等、地域に根ざした 体験的活動は、本校の生徒に とって貴重な行事である。状況に 応じて工夫し、充実したものとな るよう、検討を重ねていきたい。
	(下位組織レベル) ホームページ等 を通じた情報発信 の充実。 学校公開の機会 の充実。 地域に根ざした体 験活動・行事の実 施。 学習成果の発表、 外部の人材や教 育機関等との交流 機会の充実。	活動計画 ①ホームページの更新にすべての教員が 関わり、週2回以上更新する。 ②スクールガイドを充実させる。 ③ゴルフ研修など地域資源を生かした多様 な行事を実施する。	活動計画の実施状況 ①部活動の活動状況など、週2回以上更新している。 ホームページの年間アクセス数は823,949回[2月現 在]。昨年の同時期が884,728回であり、約7%の減少と なった。 ②6年間の教育活動がよくわかるように内容の充実を 図った。 ③コロナ禍の中にあつて、ゴルフ研修は実施することが できたが、4年生の新規行事「イングリッシュツアー」は 中止せざるを得なかった。	(所見) 今年度は、11月に保護者対象の授業参観 が実施できたものの、文化祭は非公開であ った。また、地域に根ざした体験活動や外部人 材・機関との交流活動も制限せざるを得なかつ た。 本校の教育活動を理解いただくために、ホ ームページが大きな役割を担っており、昨年度の リニューアル以来、さまざまな情報を更新して いる。年間アクセス数は昨年度より7%減少で あったが、生徒数の減少によるものと思われ る。 コロナ禍により制限があるが、保護者や地域 の期待に応えられるよう、中等教育学校として の特色ある教育活動をあらゆる機会を通じて 発信していかなければならない。		